

第4章 河川別自然再生計画

1. 自然再生計画対象河川

【選定理由】

比較的大きな河川（流域面積の大きな河川）で自然再生の根幹をなす河川

環境機能（生物の多様性）が高く、地域として自然環境に関する取り組みを実施している河川

環境機能（生物の多様性）が高く、河川の連続性の良い箇所

六方川・穴見川、八代川

鎌谷川・下ノ宮川・馬路川

三木川・大谷川



六方川・穴見川

かつて広大な湿地を形成していた六方田んぼに接し、比較的流域面積が大きいため、自然再生の根幹となり、整備効果が高い河川である。

三木川・大谷川

片間樋門付近が山裾や水田と接する等、環境機能が高い箇所であり、出石川と連続した整備を行うことで高い整備効果を期待できる河川である。

鎌谷川・下ノ宮川・馬路川

環境機能が高い河川であり、コウノトリの郷公園を中心とした、「コウノトリ翔る地域まるごと博物館構想・計画」の推進や、田んぼビオトープ、アイガモ農法等、地域として自然環境回復の取り組みが実施されている。

八代川

中下流域には水田が広がり、上流域は山裾に接する等、現在でも良好な自然環境が残る比較的流域面積の大きい河川であり、自然再生の根幹をなす。

2.対象河川における課題・目標

	鎌谷川流域		六方川・穴見川	三木川・大谷川	八代川
	鎌谷川	下ノ宮川・馬路川			
特徴 (何を保全するか?) 保全のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの郷公園から下ノ宮川合流点付近は、河川・水田・山裾の連続性が確保され、多種多様な生物が生息している。 ・日常生活の上での川との関わりが薄れてきている。その中で、地域まるごと博物館構想・田んぼビオトープ・水田魚道等の取組みが実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な自然環境は特にならない。 ・日常生活の上での川との関わりが薄れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中江井堰より下流域に比較的まとまった湿地性植物群落(ヨシ主体)が見られる。 ・淵、瀬が分布し、魚類(オイカワ、ギギ、メダカ等)の良好な生息場所となっている。 ・所々に干潟が分布し、サギ類の採餌場所になっている。 ・穴見川の六方川合流点付近は、良好な自然環境が残っている。 ・日常生活の上での川との関わりが薄れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オイカワ、ドジョウ、クロダカウニ等が生息している。 ・出石川の出水時に三木川が魚類の避難場となっている。 ・六方川、出石川、山裾、円山川と自然環境の良好な箇所が連なる中間地点に位置する。 ・日常生活の上での川との関わりが薄れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上流域には、カワニナやゲンジボタル等が生息している。 ・一部の水際部にヨシ等の湿地性植物が見られる。 ・日常生活の上での川との関わりが薄れてきている。
変化・変遷 (生物生育環境の何が変わったのか?) 再生・創出のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・河岸のコンクリート化、直線化 ・湿地の減少(推定) ・堰上げ時に上下流で水面落差が生じる ・人々の生活形態の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河岸と河床のコンクリート化、河岸の急勾配化、自然河岸の消失 ・湿地の減少(推定) ・堰上げ時に上下流で水面落差が生じる ・人々の生活形態の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河岸のコンクリート化、急勾配化 ・自然河岸の減少 ・湿地の減少(推定) ・上流域の淵の消失(推定) ・堰上げ時に上下流で水面落差が生じる ・人々の生活形態の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然河川のコンクリート水路化 ・自然河岸の消失 ・湿地の減少(推定) ・人々の生活形態の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地の減少(推定) ・堰上げ時に上下流で水面落差が生じる ・人々の生活形態の変化
要因 (なぜ変化したか?) 機能回復のヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修による河道の固定化 ・圃場整備による乾田化 ・取水堰、樋門等の設置 ・高度成長等による人々の生活の利便化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修による河道のコンクリート化 ・圃場整備による乾田化 ・取水堰の設置 ・高度成長等による人々の生活の利便化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修による護岸の整備 ・圃場整備による乾田化 ・取水堰、樋門等の設置 ・高度成長等による人々の生活の利便化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修による河川のコンクリート水路化 ・圃場整備による乾田化 ・樋門等の設置 ・高度成長等による人々の生活の利便化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川改修による放水路整備等 ・圃場整備による乾田化 ・樋門等の設置 ・高度成長等による人々の生活の利便化
課題 (生物に及ぼす影響は何?)	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息・生育場の機能の低下 ・河道内植生の減少 ・取水堰等による魚類の移動障害 ・河川と水田との連続性欠如 ・河床への土砂堆積による生物生息環境の悪化 ・人々が川を訪れる機会が減少し、川への意識が希薄化(コウノトリの郷公園付近では、子供達が川の中で遊んでいる風景がみられる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息・生育場の機能の低下 ・河道内植生の減少 ・取水堰による魚類の移動障害、水量の減少 ・人々が川を訪れる機会が減少し、川への意識が希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息・生育場の機能の低下 ・中江井堰より上流の湿地性植物が減少(現地写真の比較)、魚類の個体数の減少(ヒアリング) ・河床への土砂堆積による水質・底質の悪化 ・取水堰等による魚類の移動障害 ・河川と水田との連続性の欠如 ・人々が川を訪れる機会が減少し、川への意識が希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息・生育場の機能の低下 ・河川と水田との連続性の欠如 ・人々が川を訪れる機会が減少し、川への意識が希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内植生の減少 ・河川と水田との連続性の欠如 ・人々が川を訪れる機会が減少し、川への意識が希薄化
目標 (再生・創出及び保護・保全からみた望ましい姿)	<h3>河川におけるエコロジカルネットワークの保全・再生・創出</h3>				
	特徴的な自然環境の保全・再生・創出 <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック護岸やコンクリート三面張護岸を多自然化し、多様な河川環境を連続させる。 ・泥土等が堆積した河床を再自然化し、良好な自然環境を再生する。 	湿地環境の再生・創出 <ul style="list-style-type: none"> ・湿地環境や瀬、淵等が分布しているなど多様な環境を有する箇所は、生き物の良好な生息環境となっている。このような現状の自然環境を保全する。 ・湿地性植物が分布する多様な水際環境を再生する。 ・湿地性植物が生育する湿地環境を創出する。 	水生生物の生態を考慮した河川の連続性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・河川内に設置された取水堰や落差工等横断作物物について、魚類等が移動できるように河川の上下流の連続性を確保する。 ・河川と水路水田を魚類や底生生物が移動できるように河川と水路の連続性を確保する。 	人と河川との関わり合いの保全・再生・創出 <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の場を創出する。 ・身近な川を保全・再生する。 	